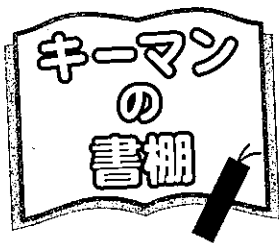


### 藪の中・將軍

(芥川龍之介著、角川文庫)



本書は、全17編から  
さまざまな悩み相談を  
受けている。

## 純真な言動に好感

NPO法人よろずや余之助会長

桑原 三郎さん(67)

伊勢崎市田部井町



「どこか憎めない主人公  
が魅力」と語る桑原さん

市民の相談役になら  
うと、太田高のOBら  
とNPO法人「よろず  
や余之助」を2002  
年に設立し、会長を務  
める。太田市浜町にあ  
る「昭和のころにあっ  
たよろず屋のような雰  
囲気にした」という喫  
茶店を拠点に、高齢者  
の近隣トラブルや空き  
家問題への対応など、  
さまざまな悩み相談を  
受けている。

なる短編小説集。その  
中でも、最も印象に残  
ったのは平安時代の貴  
族の恋模様を描いた  
「好色」だ。  
主人公の平中(ひらな)は、  
理想の女性を求めては  
口説き落とす「好色の  
天才」だった。ある夜、  
思いを寄せて数十通の  
手紙を送っていた侍従

の女性とついに会うこ  
とになったが、途中で  
逃げられてしまう。侍  
従の方が一枚上手で、  
これまで多くの女性を  
思いのままにしていた  
平中にとって屈辱的な  
出来事だった。  
悔しい平中は侍従の  
浅ましいところを見つ  
けて侍従を忘れようと  
するが、その思いさえ  
も見透かされてしま  
う。結局、最後まで未  
練を断ち切れず、自分  
の思いを遂げることが  
できなかった。

「短時間で距離を縮  
めて、気持ちをはぐし  
てあげるには、小説の  
主人公のように演じる  
ことも大事」と笑う。

### 中島飛行機の技術と経営 (佐藤達男著)

富士重工業の航空機開発の技術者だった  
者が、前身である中島飛行機について研究  
沿革と経営面、技術的な面から分析した。  
中島飛行機は中島知久平の個人企業と  
出発したにもかかわらず、短期間で日本最  
の航空機製造会社となった。太平洋戦争  
の歴史的背景や技術優先の企業風土に言  
るほか、同社が開発した機体やエンジンの  
能を、三菱重工業のそれらと比較すると  
踏み込んだ分析を試みている。  
多角的な考察から、中島飛行機の実態  
時期の日本の航空機産業に迫っている。  
(日本経済評論社・7020)

### 琉球王国と戦国大名 (黒嶋敏著)

1609年、薩摩の島津軍が侵入して  
琉球は島津や江戸幕府の影響下に入る。こ  
れに至る半世紀の相克を検証し、事件の  
を探る書。  
対明交易の「総合商社」として栄えた  
と薩摩の島津氏は倭寇問題を巡って接近  
が、どちらが上位に立つか、外交上の取  
きを続けていた。そのひずみが、秀吉の  
出兵で破綻していた日明間の通文復活を  
家康と、親明路線をとって家康を無視す  
琉球という徳川時代の構図のなかで侵入軍  
招いた、と著者はみる。  
(吉川弘文館・10030)

## 新刊ガイド

本の森